

先のソウルでのアジア大会は、韓国チームの大躍進と、日本チームの惨敗という対照的な結果で幕を閉じました。来年のソウルオリンピックでは、台風の目として、各国からマークされることでしょう。今回は韓国女性スポーツ界のリーダー、韓良順（ハンヤンスン）さんに、お話をうかがいました。

— 韓国のママさんスポーツは、ずいぶん歴史が古いとうかがっていますか？

「ええ、盛んなスポーツはバレーボール、バスケットボール、軟式テニス、卓球の4つです。この中で、バレーボールは朴・前大統領夫人も参加したカーネーション大会というのがあるんですが、これは20年前から開かれています。卓球や軟式テニスはもっと古くて、軟式テニスの方は70年の歴史があります。これは、韓国体育会（体育協会）より古いんです」

— 日本のママさんバレーは、全国大会がスタートしたのは昭和45年、組織は54年にできたばかりです。軟式テニス（全日本OG軟式庭球連盟）は、韓国のママさん団体に刺激されて組織を作りました。こう見てくると、韓国の方が先駆格といえるようですね。

「でも、女性スポーツ全般を見たとき、韓国はまだ遅れているところもあります。まず、諸外国

韓国のママさんスポーツの歴史は長いけれど、やるべきことはまだまだたくさんあります。

## ハンヤン スン 韓良順さん

1950年、梨花女子大学体育学部卒業。女子高校の教員を経て70年から延世大学教授。教壇から女子体育の指導をする一方、52年に韓国体育会女子体育指導振興委員会委員になったのをきっかけに、トップから底辺までの女性スポーツ振興に尽力。62年のアジア大会（ジャカルタ）以降、五輪も含めて女子選手団長。このほか韓国女子体育学会、YWCA、みんなのスポーツ協会などの会長も務める。国会議員としても活躍。ソウル市在住。

©フォート・キシモト



▲「スポーツの仕事は政治より面白い」と語る韓さん

で盛んになってきた女子の種目を、もっと積極的に取り入れていくこともやらなければなりません。私はこれまで、新体操（韓国ではリズム体操という）とシンクロナイズドスイミングを韓国のスポーツ界に導入しました。レベルが低い選手たちには国際大会の経験も大切なのですが、「出てても意味がない」という反対も多く、機会を作ってあげるが大変です」

— どの世界も、裏方は大変です。

「このほか、女性の指導者養成も大きな課題の一つです。私は、アジア大会の水泳で活躍した崔允喜（背泳ぎ二百メートル優勝）を延世大学に行かせました。大会前もきちんと学校に通わせ、他の選手とは別扱いにしました。彼女には、しっかり勉強してもらって、将来は指導者になってもらいます。メダルをもらった選手は、国のために奉仕する義務があるのですから」

— 日本選手には年金は出ませんが、引退後は何らかの形で社会にお返ししてほしいですね。

「韓国の女性スポーツを見た時、女性をとりまく環境を整える法的な対応も必要です」

— まさに、国会議員としてのお仕事ですが、あまりやりすぎると波風が立ちませんか。

「誰かが憎まれ役になってやらなければ、男性は認めてくれませんから、仕方のないことです」